

# 平成 22 年度 学校課題計画

## 1 研究主題

**自ら考え、共に学び合う児童の育成**  
**～思考力・判断力・表現力を高め、活用していく授業の実践～**  
**(第 3 年次)**

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 学習指導要領から

新小学校学習指導要領は、改正された教育基本法や学校教育法等の規定ののつとり、平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申を踏まえ、

- ① 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成すること
- ② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること
- ③ 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心と健やかな体を育成することを基本的なねらいとして改訂された。  
また、算数科改訂の基本方針として、
- ① 発達の段階に応じ、算数的活動を一層充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、数学的思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めるようにすることをねらいとする。
- ② 算数の内容の系統性を重視しつつ、学年間や学校段階間で内容の一部を重複させて、発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程を編成できるようにする。
- ③ 根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりすることなどの指導を充実する。
- ④ 子どもたちが算数・数学を学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感したりできるようにする。
- ⑤ 算数的活動・数学的活動を生かした指導を一層充実し、また、言語活動や体験活動を重視した指導が行われるようにする。

の 5 項目が示された。

新小学校学習指導要領は、平成 23 年度から全面実施となるが、移行措置として算数科では先行実施となっている。

### (2) 昨年度までの研究から

本校では、平成 20・21 年度の 2 年間、算数科で「自ら考え、共に学び合う児童の育成」をテーマにして、学びを高め、活用していく授業の実践について研究をしてきた。

20 年度は、児童が自分の考えを持ち、学び合う中で、自他の考え方の違いや表現の違い、それぞれのよさを確認しながら、学習を進めるようにはなってきた。しかし、少人数であるが故の学び合いの難しさを感じられた。また、学習したことを新たな問題解決の手段としたり日常生活の場面で適用させたりすることができる「活用する子」の育成までには至らなかった。

昨年度は、一人一人が個々の考えを引き出し、学び合いの場を設定し、算数的活動・言語活動を充実させる授業の展開により、基礎的・基本的な知識・技能や思考力・表現力を育て、学習したことを新たな問題解決の手段としたり日常生活の場面で適用させたりすることができる「活用力」を児童に身につけさせることをねらいに研究を進めてきた。その結果、ワークシートやヒントカードを工夫することにより、児童一人一人の多様な考えを引き出すことができたり、自分と友達の間での考え方や

表現のしかたの違いやよさを確認しながら学習を進めることができたりと、思考力や表現力を育成することにつながった。また、算数科の活用力について研修が深められ、得た知識や技能を次の学習に生かし、学びの積み上げができるような授業を実践することができた。

そこで、平成22年度は、児童が自分の考えを積極的に発表し、自分と友達の考え方や表現のしかたの違いやよさをしっかりと感じとり、思考力・判断力・表現力が高まっていくような授業の実践について研究することにした。自分の考えを表現（発表）したり受け止めたりするには、言語の能力が重要になってくる。言語活動の充実を図ることは、児童に他者とのかかわりの中で共に生きる自分への自信をもたせるとともに、確かな学力を身につけさせることになる。言語活動を充実させるための方策についても研究していきたい。

また、算数科の活用力についても、得た知識や技能を次の学習に生かし、学びの積み上げていくだけでなく、日常生活や他の教科にも活用できるような児童の育成についても研究していきたい。

### (3) 児童の実態から

平成21年度教研式CRT-II検査結果から、算数科について次のようなことが明らかになった。

- ① 算数への「関心・意欲・態度」が高い。
- ② 「数学的な考え方」の正答率がやや低い。
- ③ 「表現・処理」の正答率が高い。
- ④ 内容別にみると、「たし算」「分類・表やグラフ」「時刻」「小数の意味、表し方、計算」「面積」「計算のきまり」の正答率が低い。

これらを踏まえ、本年度も「自ら考え、共に学び合う児童の育成」と主題を設定し、継続研究を進めていくこととする。

## 3 目指す児童像

- (1) **基礎・基本を確実に身につけ、意欲的に学習に取り組む子**
- (2) **学び合いを通して考えを深め、生き生きと表現する子**
- (3) **算数のよさに気付き、活用する子**

## 4 研究の仮説

- (1) 個々の考えを引き出し、学び合いの場を設定し、算数的活動・言語活動を充実させる授業を展開すれば、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付き、思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めることができるであろう。
- (2) 主体的に学び、学んだことを次の算数の学習や他教科、日常生活等で生かすことができれば、活用能力を高めることにつながるであろう。

## 5 研究の内容

- (1) **基礎・基本を確実に身につけ、意欲的に学習に取り組む子の育成**
  - ア **算数的活動の充実**
    - ・作業的・体験的活動の充実を図る。
    - ・算数の知識をもとに発展的・応用的に考える活動を展開する。
    - ・考えたことを表現したり、説明したりする活動を取り入れる。
  - イ **児童が目的意識をもって、主体的に取り組む活動の充実**
    - ・児童が意欲的に学習に取り組める教材の開発を図る。
  - ウ **発展的学習、補充的学習の充実**
  - エ **学習したことの定着を図るためのスキル**
    - ・朝自習、家庭学習等を利用して基礎学力の定着を図る。

(2) **学び合いを通して考えを深め、生き生きと表現する子の育成**

ア **言語活動の充実**

- ・比較や分類，関連付けといった考えるための技法，帰納的な考え方や演繹的な考え方など、算数的な考え方を身に付ける活動を積極的に取り入れる。

イ **思考力・判断力・表現力の育成**

- ・日常の言語をはじめ，数，式，図，表，グラフなどの表現方法を用いて考えさせる。
- ・自分の考えを説明したり、友達の考えを読んだりする学習活動を充実させる。
- ・活発に学び合える場を設定し，実態に応じた形態を工夫する。  
(ペア・グループ・全体など)

(3) **算数のよさに気付き，活用する子**

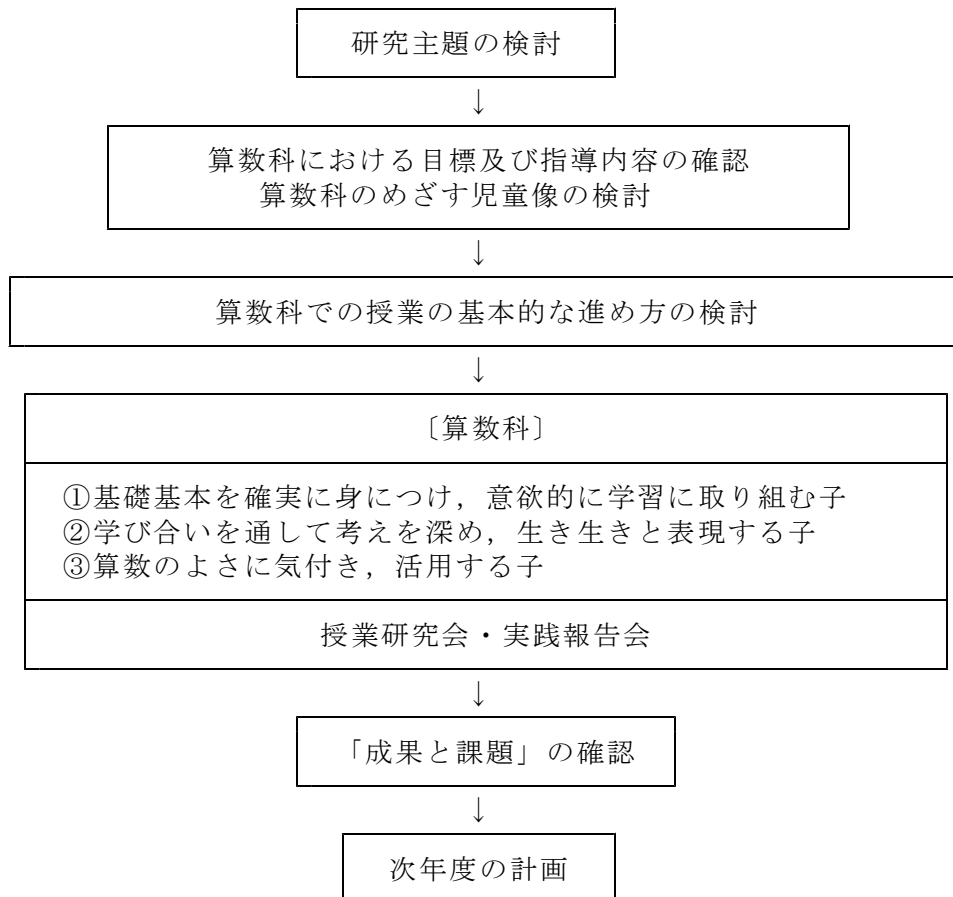
ア **学ぶことの意義や算数の有用性を実感させる工夫**

- ・既習内容を活用できる問題提示を工夫する。

イ **より進んだ算数の学習，他教科等の学習，日常生活への活用**

- ・発展的学習を積極的に取り入れる。

6 研究の流れ



7 研究の構想図

